



青葉の笛だより

第33号

令和2年7月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

中国で発生した新型コロナウイルスが世界に蔓延し、先月末の集計では感染者は一千万人を超え、亡くなった方々も五十万人以上になっていました。日本国内では、感染者の数は約一万八千五百人、死者の数は九百七十二人でしたが、終息の気配はみえず、東京とその周辺の県では増加していたので、今はもっと増えていることでしょう。

四月初めの非常事態宣言の前より始まった「自粛生活」は、仕事や学校や商売や普段の生活を一変させました。無駄に出歩き、人と接触することがウイルスの蔓延につながり、家にいることが予防と蔓延を防ぐことに繋がると呼びかけられました。また本来は、仏様の身と口と心の働きを意味する「三密」という言葉が、ウイルスが伝染しやすい状況を作り出す、「密集・密接・密閉」の意味に使われました。中には「密接」を「接近」にし、下の三文字をとって「接近・閉」という人もおりました。

五月二十一日には非常事態宣言が解かれ、六月十九日からは全国への移動自粛もなくなりました。お寺も非常事態宣言前から各種の制限をすすめ、予定していた大きな法要や定例行事

はもとより、自粛生活への協力として、回向やご祈願、納骨などの受付もすべて中止しました。また、八月に予定しているお盆の法要なども、規模の縮小や堂内参列の制限などをさせて頂き、執り行うことにしています。どうぞご承知おき下さい。

この自粛生活は、どの業界や世間でも今まで普通に話していたことや行っていたことなど、当たり前と思っていたことの全てを見直させてくれました。そして医療関係者をはじめ多くの職種の方々が、感染の危険をかえりみずに自粛生活を支えて下さいました。これからは常に距離を保ち、夏でもマスクをし、大きな声で話さないなど、コロナから身を守り、コロナを広めない生活を考えて実践し、この秋にも必ず来るといわれている、第二波・第三波に備えていかなければなりません。

まだまだその大変な生活は続きそうですが、世界中でワクチンや治療薬の研究や開発が進められています。私たちが安心して生活出来る日は少しずつ近づいています。それぞれがそれぞれの立場で感謝の心を忘れずに努力精進し、現代の便利な機器を利用し、時には広い空間でマスクを外し深呼吸して心を落ち着かせ、大きな振り所である神仏やご先祖様に祈りを捧げ、このコロナ騒ぎの終息を願ってまいりましょう。

合掌

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

十三佛に見守られて(12)

— 観世音菩薩(下) —

摩耶山天上寺貫主 伊藤 淨厳

三、『観音経』

— 観音信仰を広めたお経

観音の信仰が世に広く深く浸透し普及したのは、偏に『法華経』の「観世音菩薩普門品」(通称『観音経』)の力に依ります。当経の中には「念彼観音力」(かの観音の偉大な功德力を念ずれば)という文言が繰り返し説かれ、観音が殊のほか称讃され、かつ多数のご利益が説かれています。

このお経が飛鳥時代に階層を超えて人々の間に広まり、中世の終わり頃から江戸時代には、各地に観音霊場が開創され、巡礼巡拝が盛んになりました。

四、観世音菩薩の尊容

— 聖観音と変化観音

観音には実に多くの変化観音があります。その基本となるお姿は聖観音であるといわれています。

そのお姿は、お顔が一つで手が二本の一面二臂で、右手に清浄な蓮の花、左手に水瓶を持っておられます。(ただし、持物はさまざまで、施無畏印だけのお像もよく見かけます。)

この聖観音が基本となって、衆生の多様な願いと、それに応ずる観音の慈悲によって、さまざまなお姿(変化身)が生

み出されたのです。まさに、応病与薬であります。

例えば、よく知られているのは『観音経』に説く、仏菩薩などの三十三变化身(三十三という数は無限や永久を表示)、六道に配された六観音などがあります。ちなみに、東密系(真言宗)の六観音は、次のごとくであります。

〈六観音〉 〈六道〉

聖観音 — 地獄

千手観音 — 餓鬼

馬頭観音 — 畜生

十一面観音 — 阿修羅

准胝観音 — 人(間)

如意輪観音 — 天

なお、七観音という場合には、これに不空罽索観音を加えます。

五、変化観音のご利益

— 十一面観音を例として

変化観音のご利益について少し解説してみます。広く知られているのは、『観音経』に説かれている観音の三十三变化身(三十三観音)と、そのご利益であります。

『観音経』は皆さまが日頃親しく読誦しておられ、よくご存知と思うので、尊名などの説明は割愛させていただきます

す。お持ちの経本をよくご覧下さい。それでは、変化観音の一つである十一面観音のご利益を紹介しておきます。

『仏説十一面観世音菩薩随願即得陀羅尼経』より引用します。(このお経は和製經典とも)

《我に神呪有り。若し衆生有りて受持すること有らば、一切の病患と憂苦とを除却し、一切の悪業と煩惱とを消除す。身・口・意業をして皆清浄ならしめ、心中の百千万億等の事をして成就せざること無からしめん。》

(中略)

《若し、日毎に誦すること一百八遍すれば、万病は消滅し、寿命は長遠にして、常に十方の諸仏に護念せられ、財宝・衣食も乏しき所無からしめ、衆人の恭敬して愛念するを得せん。》

復更に、一切灾横の鬼蛇、刀杖、毒藥、呪詛、怨賊、水火の能く害する所と為らず、怖畏を遠離して安穩を得せん。命終の時に臨んで十方の仏を見、極樂に往生して惡趣に墮せざらん。》(中略)

《時に觀世音菩薩は即ち呪を説きて曰く。唵摩訶迦盧尼迦沙波訶》(中略)

《若し男女有りて、此の呪を誦すること一遍すれば、十惡五逆の一切の罪障は、皆悉く消滅し、諸の病苦を除き、諸の怖畏を離れ、生死の海を超えて涅槃の岸に到らん。》(中略)

《若し能く此の呪を誦持して我が名を称念すれば、一切の求むる所は、必定して成就し、富貴自在、無病安樂にして、智は弁才を得て、世・出世の事は意に称わざること無く、乃至無上菩提を証得せん。》

(味読して下さい。)

かくのごとく、観音を説く諸經典では、観音の現世利益の功德・ご利益の絶大なることを強調して教示しています。

六、百カ日のお導師としての観音

この観音さまは、百カ日のお導師であり、守り本尊です。言うまでもなく、観音は亡き人々に対しても、現世に生きる人々と区別することなく、共に同等と観じて教導されるのです。仏教では生と死は、別々のものではなく紙の表裏のごとく一枚なのであります。即ち生と死は同一にして、まさに生死一如なのです。

かくて、亡き人々のみ魂はこの観音さまの有難い教化に浴してご利益を受け、更に次の一周忌の勢至菩薩のもとに導かれるのであります。



四萬六千日燈明会

ゝみあかり観音ゝ



四萬六千日とは、観音様のご縁日で、この日にお参りすると、四萬六千日参詣したのに相当する功德を生ずると言われています。

須磨寺では、本堂において初盆精霊供養の法要を執り行い、引き続き境内にろうそくで形作られた巨大な観音様のお顔、みあかり観音の前で読経し、皆様方の所願成就・萬霊供養をご祈念申し上げます。

※新型コロナウイルスの影響により、余興の太鼓の奉納演奏は、中止とさせていただきます。また、本堂内の参拝はできませんので、ご了承ください。

- 一、日 時 八月九日 午後六時より
- 一、会 場 須磨寺本堂前
- 一、ご供養・ご祈禱料
- | | | |
|------|----|------|
| ろうそく | 一本 | 千円也 |
| 祈禱札 | 一体 | 三千円也 |
| 経木供養 | 一霊 | 三千円也 |

◎須磨寺本堂前寺務所にてお申し込み下さい。

夏・秋の行事案内

◆ 八月

- 九日 (日) 四萬六千日燈明会 みあかり観音 (午後六時) 須磨寺 本堂
- 十一日 (火) 十五日 (土) 孟蘭盆会
- 十五日 (土) 盆大施餓鬼法要 (午前十時) 本坊客殿
- 十七日 (月) 青葉殿孟蘭盆会法要 青葉殿

※十五日・十七日共に、コロナ感染防止対策により、参列できませんので、ご理解ご協力をお願い致します。

◆ 九月

- 十九日 (土) 二十五日 (金) 彼岸会 特別護摩祈祷 (午前十時・午後二時) 櫻寿院本堂
- 二十日 (木) 盆大施餓鬼法要 (午後二時) 蓮生院本堂
- 二十日 (木) 二十一日 (金) 盆大師 (ご縁日)
- 二十日 (日) 二十一日 (月) 彼岸大師 (ご縁日) (二十日のみ午後三時) 護摩堂

◆ 十月

- 二十日 (火) 二十一日 (水) 大師縁日

◆ 十一月

- 二十日 (金) 二十一日 (土) 大師縁日
- 二十三日 (月) 秋の大祭 須磨の火祭り 柴燈大護摩供 (午前十一時) 須磨寺境内

須磨の火祭り

須磨の火祭りは屋外での柴燈大護摩供で、この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年を迎えるために晩秋に行います。火渡り修行とは火生三昧ともいわれ、柴燈護摩の終わりに火の上を渡る荒行です。浄火により災厄を破く福を招くといわれております。特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをして身を清め、新年をお迎え下さい。

火渡りの方は当日お札、行者手ぬぐいをお渡しします。

記

一、日時 十一月二十三日（月曜日）

午前十一時開白

一、会場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて

一、ご祈祷 特別祈祷札 一万円・三万円・五万円

添護摩木 千円

一、火渡り 厄年特別火渡り 五千円

一般火渡り 二千円（先着百五十名）

※火渡り修行は荒行です。多少のやけどもごさいます。
申込書の注意をよくお読みのうえお申し込み下さい。

一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込み下さい。



令和三年 厄年表

平成 十五年生（女性）	厄年	平成 九年生（男性）	小厄
平成 二 年生（女性）	前厄	昭和五十六年生（男性）	前厄
平成 元 年生（女性）	本厄	昭和五十五年生（男性）	本厄
昭和六十三年生（女性）	後厄	昭和五十四年生（男性）	後厄
昭和 六十年生（女性）	厄年	昭和三十六年生（男性）	厄年
昭和三十六年生（女性）	厄年		

永元楊柳観音石仏

正覚院、放生池の築山に石龕に納められた『楊柳観音石仏』が祀られています。

この石仏は正覚院中興の祖三浦真澄和尚が昭和十年前後に中国の東北地方（旧満州）より持ち帰ったものです。台座に『大斉永元五年養造』と銘があり中国斉朝（西暦五百三年）のものと記されています。

楊柳観世音菩薩は一名を薬王観音とも云われ、三十三観音の筆頭として衆生より篤くあがめられている仏様です。その右手には柳の枝を取り、左手には薬壺を持して、一切の衆生に良薬をほどこし、病苦をはらい生命を救う観音様として深く信仰されています。



お寺で学ぶ周活知恵袋

須磨寺派潮音寺副住職 中山戒仁

「エンディングノート」のトリセツ

終活と言うとまず「エンディングノート」を思い浮かべる方も少なくないでしょう。では、エンディングノートを書く目的とは何でしょうか。周囲の状況を見て私が感じることは、

- ① ご自身の今の生活環境（資産状況等）の把握
- ② 将来に向けたご自身の希望と人生設計の確認
- ③ 旅立ちの準備と旅立ち後の事務の段取り 等々

①～③のことを書き出して目に見えるようにしてご自身やご家族のことを考えることが主な目的になっているように思います。とても大切なことだと思いますが、だからこそ気を付けて頂きたいことがあります。それは

① エンディングノートは遺言書のように法的効果を必ず発生させるものではない

② 記載内容が重要な個人情報が多いので記載の仕方に気を付ける

③ エンディングノートの保管を厳重にする

④ エンディングノートの作成の目的を明確にする

ということです。エンディングノートをきちんと埋めてもそれが直ちに「遺言書」のような法的効果を生じるものではないですし、市販のエンディングノートを見ると財産等について詳細に記載するものも多く個人情報満載になっており、第三者に見られてしまうと不測の損害を被る可能性があります。では、エンディングノートをどのように使用すればいいのでしょうか。私は、『遺言書・任意後見契約書・死後事務委任契約書等の作成』を決めた時にエンディングノートを作成するのがベターだと

思います。『遺言書等の書面』は「ご自身の資産状況の確認と資産の分配」「判断能力が低下した時、介護を要する段階での希望する対処」「葬儀・埋葬等に関する希望」「居宅・家財の処分等」等についてご自身の意志を反映し、ご自身で判断が出来なくなった時・動けなくなった時・旅立った時やその後の事務をお願いする方への経済的なことを含めた事務負担等の軽減を図るために必要かつ重要なものになってきます。ご自身の資産や生活環境、今後の希望等をエンディングノートで整理をしてから、それを基に専門家に相談して必要な書面を作成するというのが理想のカタチだと思っています。

周活（終活）で大切なことは

① ご自身の想いを明確にして伝える

② 事務をお願いする人へ負担の軽減

この2点はとても大切なことです。人は一人では生きていけませんし、心身に不調をきたすと自分だけで生活することも困難になります。また、旅立ちの時や旅立ち後のことは言うまでもありません。サポートして頂く方とのコミュニケーションを取って備えをし、ご自身の不安を解消することで、日々を安心して楽しく暮らして頂ければと思います。



須磨寺の歴史 〈二十五〉

― 法印転衣式

緊急事態宣言発出前の三月十三日に高野山金剛峯寺にて、第五百二十一世寺務検査執行法印^{じむけんぎやうしやうほういん}に就任した遍照光院住職・酒井道淳大僧正の転衣式^{てんねしき}が行われました。

寺務検査執行法印とは高野山内では最高の位で、弘法大師の名代として高野山内の重要な法会や儀式の導師を取り仕切る役職で任期は一年。元々は臨時の職でしたが、高野山では一一三六（保延二）年に真誉という僧侶が就任して以来は常職となり、略して法印とも呼ばれます。そして転衣式とは法印の就任披露で、緋色の僧衣に着替え、次期法印から祝いの米と昆布を受け取る「松三寶^{まつさんぼう}の儀」で祝福を受けます。

遍照光院と須磨寺は縁が深いため本来なら一山を上げてお祝いに駆け付ける予定でした。しかし新型コロナウイルスの影響で式典が縮小されたため参列することは叶いませんでしたが、転衣式は参列者を高野山内寺院住職・町家のみに絞り、肅々と行われました。新型コロナウイルスの影響により、日本全国で多数のイベント等が中止や延期になりましたが、高野山では参拝者は制限されても法会や儀式は滞りなく執り行われ、弘法大師からの伝統を守り続けています

蓮生院 七月から十月までの行事予定

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできる写経・瞑想体験ですので、写経・瞑想をしたことがない人でもご参加ください。また瞑想会の後にお茶を出させていただきますので、心身共にゆつたりとしてください。

（写経のみ、瞑想会のみ参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください）

日 時…七月二十六日（日）、九月二十七日（日）、十月二十五日（日）

写経会十四時～十五時半 瞑想会十六時～十七時半

（受付は三十分前から）

*七月二十六日十時～十一時半、死生観くつちやべり

場 所…蓮生院本堂

参加費…写経五百円・瞑想会千円

事前申し込み制です。

前日までに蓮生院の寺務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。

蓮生院電話番号 ○七八―七三一―二三一一

令和2年 年忌一覽

一周忌	令和元年亡	二十五回忌	平成八年亡
三回忌	平成三十年亡	二十七回忌	平成六年亡
七回忌	平成二十六年亡	三十三回忌	昭和六十三年亡
十三回忌	平成二十年亡	三十七回忌	昭和五十九年亡
十七回忌	平成十六年亡	五十回忌	昭和四十六年亡
二十三回忌	平成十年亡	百回忌	大正十年亡

仙師逍遙

梅雨の晴れ間の須磨寺参道に、爽やかな海風が届いています。今日は三月ぶりの須磨寺仏像彫刻会。「待ち兼ねました」の名札を胸に、お馴染みのお顔が集まったのは、この度須磨寺管長様のご厚意で新しくなった私の工房兼彫刻教室。採光も理想的で広さも十分余裕があり、参加会員が一緒に喜びの声を挙げてくれました。

思えば、須磨寺参道に工房を開いたのは平成元年の立春吉日。かれこれ三十二年前のことです。

きっかけとなったのは仁王様。三重塔御本尊大日如来様、大師堂に弘法大師様と続いて造仏のご依頼をいただき、須磨寺様に足繁く通っている内、仁王様が阿形吽形ともに傾いていることに気がつきました。そこはやはり仏師ですから、お断りして柵を乗り越ええました。手袋越しに触れるまでもなく幾星霜を耐えてこられた損傷は全身に明らかで、特に体重の掛かる足ほぞには倒壊の恐れさえ見えます。その旨を当時の副住職現在の管長様にお話をして、お修理のお応えをいただき、都合よく仁王門前の一軒の空き家を工房としてお借りすることができました。仁王様をお迎えするにあたって、床材を補強、搬入搬出のための窓枠の拡張など、準備万端整えて、新工房に仁王様をお迎え致しました。

お修理の期間中は当然、仁王門は留守になります。仁王門は文字通り仁王様の門ですから、仁王様がいらっしやらないとそこに大きな空間ががらんとあいてしまいます。それはお参りする方にも、とても寂しいことと感じられたのか、ご先代管長小池義人和尚が一計を案じられ、仁王門の中に二メートルを優に超える大きな立看板を設置されました。

その立看板に墨痕隆々と記された文字に曰く

「仁王様只今整形外科入院中」

このなんとも奮った立看板に、参詣の方々が

「あれ、仁王様入院してはるんやて」

などちよつと立ち止まって、そこに仁王様お留守の寂しさの暗さを補って余る、面白い笑いの場が生まれました。

一方、長期戦は覚悟の上で取り掛かった御修理ですが、少しずつ解体を進めますと、外から見た損傷もさることながら、目では気づかなかった傷、木の腐食、虫害、欠損が次々明らかになり、修復完了まで三年を超えてしまいました。これは予定の倍の日数を費やした事になりますが、結果的には充分に時間を戴けたお陰で、修復完了の半年後に遭遇した阪神淡路大震災にも耐えることが出来、仁王様は今もしっかりと山門を守っていらっしやいます。

古いお仏像のお修理は 新たな彫像とはまるで違い、お修理ゆえの楽しさ（もちろん難しさも）があります。修復

はまず、何百年も以前の仏師さんの仕事を真似ることに始まります。木組みの仕方や鑿の跡を辿りながら、「ああ、此処はこういうお気持ちで刃物を使われたな」などそんなことを考えていると、知らず知らず時代を超えて職人同士が会話する、まるで小さなタイムスリップの様です。

阿形の仁王様の修復を終えて、吽形の仁王様に取りかかった時、喉仏の下の部分に欠損があり、そこに埋木されていた小さな木片が、ポロリとはずれました。これは最初の制作時ではなく、明らかに二度目か三度目のお修理の折に差し込まれたもので、細い筆で書かれた文字があらわれました。「大仏師 円○○」と仏師名が記されて、お名前の円の後は掠れて読めません。その木片を手に載せて、じーつと見てみると、なんだか何百年以前に修理に携わった仏師さんが「一生懸命努力しましたが、完璧とはまいません。どうぞよろしく」と私に呼びかける声がかきこえてくるような気がしました。勿論私も精一杯頑張ってお修理をいたしました。が、やはり完璧には程遠く、何百年か後にはお修理の必要が生じるかもしれません。その時には、未来の仏師さんに向かって、私もまた、「どうぞよろしくお願いします」の言葉を託すことになりました。

お仏像は日々たくさんの方々に拝まれることで、その計り知れぬ崇高な思いのちからで守られて、後世へと大切につたえられてゆきます。その流れの

なかでは、仏師から仏師へのバトンタッチは小さな一つの歯車役に過ぎません。仏師という職業名を名乗って半世紀あまり、点描の点をなぞるように振り返ると、この遙かな道の途上に今尚自分があることを、何より幸運と感じられます。

そして遠いあの日、初めて仏様のお顔を彫らせてもらった日の、震えるような喜びと怖れをいつまでも忘れない職人でいたいと、新しい工房の大きな窓を開けて、清々しい初夏の風に吹かれながら、遠くまた近くの轉りを聞いていました。

須磨寺大仏師

山高龍雲



須磨寺櫻壽院晋山式

去る5月3日、櫻壽院元住職真寛僧正三十三回忌法要並びに、真淨僧正名誉住職晋山、真英僧正住職晋山式が新型コロナウイルスの状況を鑑み、最少の法縁者にて執り行われた。



ご挨拶

この度、新住職に晋山致しました井上真英です。父の三十三回忌に合わせ晋山することになりました。新型コロナウイルスの状況下でもあり戸惑い悩みましたが、とりあえず拝むことに専念いたしました。

「とりあえず拝む、何をするにでも拝む、禱りが真言僧侶の基本、まず拝む。そして、お寺のことを考え行動しろ」

これは高野山で小坊主の時代によくいわれた言葉です。おかげさまで習慣になっていきます。拝みながらこの国難ともいえる時代に、住職としてどのようにしたら良いのか、ふと先人達ならどうするのかと日々、禱り考えております。

私は須磨寺櫻壽院で生まれ、昭和五十九年中学卒業後、高野山へ上がりました。高野山では上池院に預けられ、お寺で修行しながら高野山高校、大学、専修学院と進み、得度、受戒、伝法灌頂を受け、平成四年に須磨寺に帰ってまいりました。

高野山での修業は厳しかったですが、良い経験がたくさん積みめました。その中でも多くの老僧、兄弟弟子、お参りに来られた方々に有難いお話を聞き、この話もいつかわかる時がくるといわれたことは、今となってはとても有難く、私の財産ではない

かと思ひ、とても感謝しています。

ちょうど私が高野山に上がった年は弘法大師御入定千五百十年御遠忌でした。

「この時に高野山に上がるのは凄い仏縁だ。なかなか経験出来ることではない。この仏縁を大切にしたい。ご縁は仏様が結んで下さる、このご縁を生かすも無駄にするのも本人次第。仏様が結んでくれたご縁を生かせるように心を清浄に保ち精進したい」

高野山に上がつて最初にいわれたこの言葉が今の私の心に響いております。お寺に産まれたご縁、高野山のご縁、檀家さん信者さんを始め多くの方々のご縁、そしてこの度の、櫻壽院住職晋山のご縁。多くのご縁によつて私は生かされております。これはお寺もそうです。ご本尊並びに諸佛、教義、檀信徒一門のご縁、今まで受け継がれてきた先人達のご縁など多くの仏縁により今日まで続いています。私一人だけではどうすることもできません。櫻壽院本尊のご縁、御大師様のご縁、僧侶、檀家さん、信者さんのご縁。多くの仏縁を大切に感謝しながら日々精進しようと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

井上 真英